

公表

## 事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	キッズボンドE X 第四教室 八街			
○保護者評価実施期間	令和6年12月9日	～		令和6年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	5
○従業者評価実施期間	令和6年12月9日	～		令和6年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月27日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちの『自立』に向けた「自己肯定感を高めるためには」に目を向け、生きていくうえで欠かせないさまざまな能力を【小さな7つ】【大きな2つ】【魔法の言葉】というキーワードに掲げて、発達支援の5領域（「①健康・生活」「②運動・感覚」「③認知・行動」「④言語・コミュニケーション」「⑤人間関係・社会性」）に当てはめて、支援に当たっている。	「ガイドライン」をよく読み解き、自己肯定感を育むための支援（「小さな7つ」「大きな2つ」「魔法の言葉」）についての内部研修を毎月実施している。	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)として、保護者会の中での研修として取り組んでいく。
2	公式LINEなどSNSのDM機能など、ICT（Information and Communication Technology インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー 情報通信技術）技術を活用し、教室でのお子さまの状況迅速にお伝えしている。	文字でのみの伝達だけでなく、動画による送信を中心に画像でご確認いただけるようにしている。	インスタグラム（Instagram）での写真や動画をストーリーズを活用しながら、教室での活動報告を迅速にお伝えする環境を整えている。
3	児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準（基準省令）の第十四条 提供拒否の禁止の遵守。	お子さまの心身の状況、その置かれている環境等の的確な把握に努め、お子さまの状態や障害の特性を関係機関（行政関係等）や子どもの主治医等との連携体制を整えている。	個々の子どもへのアセスメントを踏まえ、専門人材の活用とニーズを踏まえた計画的な専門的支援（オーダーメイド支援）への取組みを行なっていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ギャングエイジ（一般的に小学校3年生くらいから4、5年生くらいの時期の子ども）への対応	仲間内でのルールや自分たちの世界観を好むようになり、自分の基準で善悪の判断をしようとするので、意見の合わない大人を敵対視する。	自己肯定感を高めるための支援 → 『ほめる』
2			
3			